



リーダーシップを発揮しよう

帝京大学大学院公衆衛生学研究科教授

福田 吉治

【略歴】

平成3年熊本大学医学部卒業。平成10年熊本大学大学院医学研究科修了（社会医学専攻）。国立医療・病院管理研究所（医療政策研究部）、東京医科歯科大学医学部（公衆衛生学講座）、国立保健医療科学院（疫学部）を経て、平成22年に山口大学医学部地域医療学講座教授に就任。平成27年から帝京大学大学院公衆衛生学研究科教授、平成30年には同研究科長。

【専門分野】

公衆衛生全般。特に健康増進・健康づくり政策・健康教育、社会疫学（健康の社会格差、健康の社会的決定要因）、地域医療・保健・産業保健など。近年では行動経済学で用いられる「ナッジ理論」に基づいて公衆衛生施策を指導。

【学会・委員】

国民健康保険中央会 国保・後期高齢者ヘルスサポート事業運営委員会

国民健康保険団体連合会 保健事業支援・評価委員会委員（東京都・埼玉県）など

【主な著書】

「ナッジを応用した健康づくりガイドブック」 共著 2023年 帝京大学大学院公衆衛生学研究科

「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)からの教訓—これまでの検証と今後への提言」 共著 2021年 大修館書店

「健康行動理論による研究と実践」 共著 2019年 医学書院

他論文多数

◆リーダーシップの重要性

この原稿を書いているのは10月初旬で、ラグビーワールドカップで日本が予選を突破し、ベスト8に入ることができると、盛り上がりがあります。原稿が世に出る頃には、結果が出ているはずです。

スポーツはなんでも観ますが、最近のお気に入りラグビーです。これは、私が帝京大学に所属していることに関係しています。ご存じの方もいるでしょうが、帝京大学のラグビー部はとても強い。大学選手権9連覇、3年空けて現在2連覇中です。そして、今回のラグビーワールドカップ日本代表には帝京大学出身者がなんと7名も。これは応援のしがいがあるというものです。

ラグビーを観ていて思うのは、チームシップとリーダーシップの大切さです。他のスポーツもそうですが、特にラグビーは、それぞれのポジションが役割を全うし、全員が手を抜くことなく、チームとして戦うことが求められます。そして、それをまとめるのがリーダーであるキャプテン。今回は、帝京大学出身の姫野選手です。

リーダーシップはスポーツだけではなく、ビジネスにおいても

重要で、リーダーシップを養うための教育も盛んです。書店にはリーダーシップに関する本がたくさん並んでいます。それだけ、リーダーシップへの関心が高く、また、リーダーシップに悩んでいる人が多いということでしょう。

帝京大学のラグビー部が強くなったのは岩出雅之前監督（現帝京大学スポーツ局長）の功績によるところが大きいとされています。そして、岩出前監督のもとから、姫野キャプテンなど、次のリーダーが生まれたいように、良きリーダーは次のリーダーを育てるのです。私も、岩出前監督の講演や著書から、リーダーシップについて、いろいろと勉強させてもらいました。

私の所属する大学院でも、以前よりリーダーシップに関する科目があり、リーダーシップの教育を進めています。公衆衛生の分野においてもリーダーシップが重要なからです。今年度からは、リーダーシップの科目の講義時間を増やして、内容をさらに充実させることにしました。コロナ禍で逼迫した保健所や医療機関などで、リーダーシップの重要性が強く認識されたことが背景にあります。

◆役割に応じたリーダーシップ

リーダーシップの考え方はいろいろありますが、最近の主流は、*「だれでもリーダーシップを発揮できる」*というものです。チームの中で、リーダーの地位にある人は、リーダーとしてのリーダーシップ、リーダーに従ういわゆるフォロワーは、フォロワーとしてのリーダーシップが発揮できるというものです。

ラグビーでは、リーダーだけではなく、すべてのメンバーが、役割に応じてリーダーシップを発揮する必要があります。自分自身はリーダーシップをとるような人間ではないという人がいますが、リーダーシップもいろいろな形があり、それぞれが自分の個性を活かしたリーダーシップが発揮できるのです。

さて、皆さんの職場はいかがでしょう。国保部門では、データヘルス計画などで事業が増えて、事務職と専門職あるいは他部門との連携が求められ、リーダーシップがますます重要になっています。ぜひ、リーダーシップを学び、実践してみよう。

記事提供 社会保険出版社